

## 自然豚はこんなふうに育っています

七星食品の肥育農場はすべての農場がバイオベッド方式で、きれいな水と空気、豊かな自然に恵まれた環境です。豚は気温の変化に敏感な動物なので、病気になるまいと毎日きめ細やかに目を配り、できるだけ動物本来の自然のままに、大切に育てられています。



### 繁殖農場（阿波ファーム・アニマルウェルフェア対応）

吉野川河口まで見える山の上の静かな広い敷地に、仔豚と母豚の豚舎があります。山に囲まれているため気温も高くなりず、とってもいい環境です。山の美しい空気の中かで、自然豚は元気に育っています。



### 分娩舎（阿波ファーム・アニマルウェルフェア対応）

大切な仔豚と母豚のための設備は、特に安全で高度な衛生環境が必要です。母豚が仔豚を押しつぶさないよう仕切りはありますが、通常より広い1頭あたり4.32㎡のスペースを確保。仔豚たちが温まるヒーターも完備しています。

## 自然豚が届くまで



### 自然豚の地域貢献

自然豚の豚ふんは堆肥舎で良質の堆肥になり、生産者の情熱カンパニーのキャベツや地元の農家などで使われています。飼料米にも活用され、飼料→堆肥→飼料米という食料自給率向上を目指した地域循環が実現しています。

### 自然豚の農場・加工工場

- 繁殖農場** 阿波ファーム（徳島県阿波市）  
多和ファーム（香川県さぬき市）
- 肥育農場** 美波農場（徳島県海部郡）  
志和岐農場（徳島県海部郡）  
香南ファーム（香川県高松市）  
高映牧場（香川県観音寺市）
- 加工工場** 造田PC工場（香川県さぬき市）



### 繁殖農場（阿波ファーム・アニマルウェルフェア対応）

妊娠した母豚にストレスを与えないよう自由に歩き回れるフリーストールです。一般には狭い柵で囲われています。健康状態や給餌量はITで個体ごとに管理しているので、豚たちは好きな時にエサを食べ、ゆったりと過ごしています。



### 肥育農場（美波農場・アニマルウェルフェア対応）

大きくなると、60cmもの深さにおかずを敷き詰めた豚舎に引越します。ふかふかのバイオベッドを掘ったり、走り回ったり、のびのびと過ごしています。動物本来の生態・欲求・行動を尊重した飼育だからこそ元気な豚が育ちます。

# Animal Welfare

おいしさと、やさしさを、農場から食卓へ

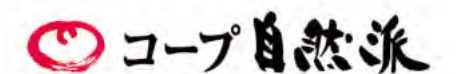


we choose sustainable food

一頭まるごと買い支えて自然豚を助けよう。

組合員の声から生まれた自然豚の「本物の安心」への取り組みは、さらにステップアップし、アニマルウェルフェア対応へ。エサからこだわり、自然に、健康に育つ自然豚の取り組みを、余る部位なく一頭まるごと買い支え、みんなで助けたいと思います。

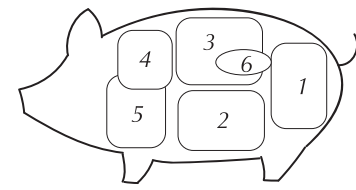
選ぶもので  
カラダが変わる  
社会を変える



# 自然豚は自然豚のまま

## ちゃんと全部、組合員さんに食べてもらいたい

自然豚一頭からとれるお肉の部位と量には限りがあります。ですから、一部の部位だけの利用が進むと、余る部位が出てきてしまいます。必要な自然豚の頭数は増えていくのに、在庫として余る部位がたくさんあると、生産者は取り組みを続けていくことが難しくなってしまいます。私たち消費者は安心・安全な食べものが欲しいという願いを伝えるとともに、それを実現するために生産者を支え、ともに歩んでいくことが必要なのです。お肉の部位によって、味わいや適した料理は様々です。ぜひ自然豚のいろんな部位を利用して、自然豚の取り組みを支えてください。



## 部位バランス

自然豚の部位構成比・2019年度

1. モモ	26.5%
2. パラ	16.1%
3. ロース	13.9%
4. 肩ロース	7.8%
5. スペアリブ	2.4%
6. ヒレ	1.4%
他 切落とし・ミンチ	31.9%

## 自然豚はここが違います

- コープ自然派でしか買えない「顔の見える」産直です。
- 豚の生産・育成から加工、流通まですべて一貫生産です。
- エサまで NON-GMO だから安心です。
- 抗生物質や合成抗菌剤を使わず、豚がもつ免疫力が高まるよう健康第一に育てています。\*仔豚期を除く
- 1頭あたりの飼育スペースを広く取り、できるだけストレスを与えないよう育てています。
- バイオベッド方式なので、穴掘りや体温調整など動物本来の行動がとれます。
- 妊娠ストールはフリーアクセスストールを採用しています。\*阿波農場
- 分娩ストールは従来より広いスペースを確保しています。\*阿波農場

世界基準のアニマルウェルフェア対応農場

## エサまで安心

とうもろこしは生産量の中でも数パーセントしかない非遺伝子組み換え (NON-GMO) および PHF (収穫後農薬不使用) コーンです。大豆油かすも非遺伝子組み換えを使用しています。さらに麦類8%以上使うことで肉質と脂身に甘みと旨みを引き出し、安全で美味しい肉に仕上がっています。また、飼料米を飼料全体の5%以上配合しています。



## 快適な環境づくり・バイオベッド

自然豚の豚舎には「ベッド」があります。ベッドとは、おがくず・堆肥・米ぬかを土壌菌で発酵させた「おがくずのベッド」のこと。深く敷き詰められたベッドは土壌菌によって40~50℃で常に発酵しているから尿やふんはすぐに分解・発酵されてハエやダニ、悪臭もありません。

アニマルウェルフェアの指針

### 「5つの自由」

- 飢えや渇きからの自由
- 痛み、負傷、病気からの自由
- 恐怖や抑圧からの自由
- 不快からの自由
- 自然な行動をする自由

# 自然に生まれ、自然に育ったから自然豚。

## 自然豚とは？

自然豚は1998年、組合員の「安心・安全な豚肉を食べたい」という願いから誕生しました。エサのNON-GMOや飼料米の取り組みなど、一歩ずつ取り組みをすすめてきました。そしてこの秋、準備に5年の歳月をかけたアニマルウェルフェア対応の新しい生産体制が整います。生産者は食べる人を想って生産し、食べる人は作ってくれた人に感謝していただく。そんな「顔の見える」関係で安心とおしさをつなぐコープ自然派の産直が、また新しい一歩を歩みだしています。



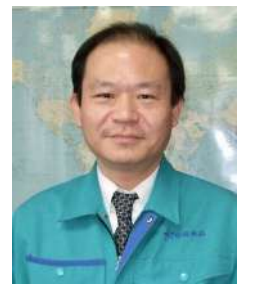
## LET IT BE (あるがままに)

「いかにして、おいしく、かつ安心・安全な豚肉をつくるか」  
「お客さまに喜んでいただき、かつ支持され続ける製品(豚肉)をいかにしてつくるか」  
我々の命題であります。  
これに対するひとつの手段が、  
アニマルウェルフェアの概念を導入した農場づくりでした。  
LET IT BE (あるがままに)・・・  
元来(自然に)家畜が持っている能力を適切に発揮させること。  
人為的な要因を極小化すること。  
家畜が(心身ともに)健康な状態であること。  
これらの事柄をクリアし続けること。  
そして、お客さま(組合員さま)によるこぼれ続けること。  
我々の想いであり、願いです。

七星食品 代表取締役 東原寛二



↑  
東原社長の動画も  
ご覧ください



## コープ自然派と自然豚のあゆみ

- 1998年 自然豚を愛媛県の農家で生産開始 (トウモロコシ PHF・NON-GMO)
- 2000年 大豆油かすも NON-GMO に
- 2004年 徳島県海部郡・志和岐農場で自社生産開始
- 2007年 食材セットスタート
- 2009年 肥育用飼料に飼料米を添加開始
- 2018年 新プロセスセンター(加工工場)完成
- 2019年 アニマルウェルフェア対応繁殖農場完成
- 2020年9月 アニマルウェルフェア対応肥育農場完成
- 2020年秋からいよいよフル稼働  
→年間出荷可能頭数は約2万頭に

## しあわせに育った豚をいただくことは、自分もしあわせになる。

## アニマルウェルフェア Animal Welfare



近年、「アニマルウェルフェア」という考えが世界的に注目されています。アニマルウェルフェアは、「動物たちは生まれてから死ぬまで、その動物本来の行動をとることができ、『well=よく』『fare=生きる』つまり幸福な状態でなければならぬ」という考えを背景として欧米で誕生しました。20世紀後半に始まった工場的畜産システムは、生産効率を追求し、劣悪な飼育環境や、過密飼育による病気発生予防のための抗生物質の投与などが問題になっています。日本の畜産動物福祉は、2020年度版世界動物保護協会(WAP)動物保護指数レポートの評価では最低のGランク。いのちをいただく人間と家畜はお互いに依存しあって生きています。アニマルウェルフェアとは、よりよく生きる共生システムなのです。